

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」
「コンフリクトの人文科学」セミナー 第56回

南アフリカ史のなかのブリティッシュ・アイデンティティ

講師：堀内 隆行
(新潟大学人文社会・教育科学系准教授)

要旨：

南アフリカの政府機関による最新の人口推計は、住民を「アフリカ人」(80%弱)、「カラード」(ケープタウン周辺の先住民、解放奴隷、混血の人々/10%弱)、「白人」(10%弱)などに分類する。イギリス系南アフリカ人は今日この白人のなかで、アフリカーナ(オランダ系/ボーア人)に次ぐ第2集団に過ぎない。しかし、その存在は軽視できないものがある。たとえばイギリス系のDA(民主同盟)は、ANC(アフリカ民族会議)の多数派支配に反発するアフリカーナ、カラードの支持を集め、西ケープ州議会の与党となっている。また、英語も唯一の共通語として、アフリカーナとカラードのアフリカーンス語、アフリカ人のバントゥー諸語を圧倒する。今回の課題は、こうした現状の歴史的背景を探ることである。まず19世紀末以降のアフリカーナ、次に20世紀のカラードについて、ブリティッシュ・アイデンティティとの関係を検討する。更に、以上の検討をふまえてアフリカ人、イギリス本国などの問題にかんしても展望を開いていきたい。

講師紹介：

専門は西洋近現代史(イギリス帝国史)。博士(文学)、京都大学。日本学術振興会(甲南大学)特別研究員を経て、現在、新潟大学人文社会・教育科学系(教育学部)准教授。近年のおもな業績に、'British Identity in the Late Nineteenth Century Cape Colony: Racism, Imperialism, and the Eastern Cape'(Zinbun 41, 2009);「歴史家E・A・ウォーカーと南アフリカのブリティッシュ・リベラリズム」(『史林』91巻6号、2008年)など。

日時：2010年11月15日(月) 17:00 ~ 19:00

会場：大阪大学大学院人間科学研究科(吹田キャンパス) 東館1階 106 (参加無料)

東館は万博外周道路側の別館です。

大阪大学大学院人間科学研究科(吹田キャンパス)への
交通アクセスは<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085/06-6877-5111

